慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	モリス・ヒルキツトの「マルクスよりレーニンへ」
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.6 (1922. 6) ,p.797(57)- 803(63)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220601-0057

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

雜錄

モリス・ヒルキットの『マルクスよりレーニンへ』

加田哲二

ロシヤにおける社會主義革命が、その過渡期における無產階級の獨裁を經過して、共產主義の社會に入るや、否やは未だ斷定することは出來ないが、現在までにおける『ソヴィエット、ロシヤの主要なる貢獻は、マルクスの雄渾なる表現を借りれば、「その能動的存在」である。歐洲の最大國における勞農共和政の事實は、社會の資本主義的組織が不變であり、永遠であるとする迷信と、不合理なる信念とを打破した。そは社會主義的理想をユートピアの抽象的で思辯的な王國から、現實の堅實なる地上に齎らしたのである。」吾々はロシア革命又はその共產主義の原理を否定すると、肯定するとを問はず、この事實の認識をヒルッキットと共に、否定することを得ない。こゝに紹介せんとするヒルキットの著書はロシア革命をその理論的方面から批判したものである。私はこの書を以て、ロシア革命理論の最良のものと信ずるものではない。ロシア革命並に共產主義に關する歐米の著作は實に汗牛充棟も啻ならざることも知つてゐる。またロシア革命の指導者が優秀な思想家であつて、幾多の名著を出版しつゝあることも知らないのではない。たゞ書籍を得ることが甚だ不自由である日本にあつては、是等の著書を手にすることが、甚だ困難である。それと共にこれらの部分的並に宣傳用の冊子を以ては、革命理論全體の鳥瞰圖たらしめることを得ない。私がヒルキットの著書 From Marx to Lenin, Published by

Hanford Press を紹介せんとする理由は、之が僅々百五十頁の内に、革命理論の大體が、展開せられ、批判せられてゐるからである。

ヒルキットは先づ社會運動の基準的理論は、マルキシズムにありと斷し、（六頁）マルキシズムの社會學說の眞隨を以て、經濟的進化論で、「共產黨宣言」「經濟學批判」の序文等に現はれたものの求めることが出來るとしてゐる。殊にマルクスがその「資本論」第一卷の序文に「資本制生產の自然法より生ずる社會的對抗の發達程度如何は、其れ自體としては問題ではない。問題は實に、此の自然法その者である。此の鐵の如き堅固不動の必然力を以て作用し貫徹する傾向が問題である。要するに、產業の比較的發達した國は、其の發達比較的幼稚な國に對して其將來の狀態を豫示するに過ぎないのである。」（高畠氏譯）と云つた社會的進化論を以て、マルキシズムの本質とした。故に社會主義的革命の基條礎件は、次の五つとなる。

（一）資本主義的生產における高度の發達と集中とが存すること。（二）その結果として產業に共同的又は社會的勞働の行はれること。（三）有力なる巨大な資本家階級の存在。（四）工業的勞働階級が人口の大多數を形成し、訓練せられ、結合し、組織せらるること。（五）資本家と勞働者との間に激烈なる能動的な意識的な階級鬪爭が行はれること。（一八頁）

然るに一九一七年のロシヤにはこの條件は殆んど具備してゐなかつた。マルクス、エルゲルスもロシア問題に就いて各自の見解を持つてゐた。それは一八九四年にエンゲルスによつて "Internationales aus dem Volkstaat" と云ふ表題の下に刊行せられた。村落共產團體を基礎として社會主義社會の實現を期さうとした "Narodnichestvo" の學說の主張者 Peter N. Tkachoff に與へた一八七四年の書翰でエンゲルスは、社會主義革命の要素として資本主義生產關係、即ちプロレタリアートとブルジョアジーの對立の必要であることを主張し、社會主義革命が一方にプロレタリアートがないと共に、他方ブルジョアジーのない國において、容易であると云ふのは、たゞかく主張する人が社會主義の初步をも學んでないことを立證するのに過ぎぬと云つた（二三頁）たゞエンゲルスは（一）村落共產制度が永續し、（二）西部歐洲においてプロレタリアの革命が成就すると云ふ二條件の下において、ロシア革命の可能性を認めたのであつた。（二五頁）然るにエンゲルスは十二年後（一八九四年）において村落共產制の破壞を見、近世無產階級の發達するにあらざれば、社會主義革命の不可能を斷言した。（二七頁）

一九一九年三月モスクワで開かれたコンミュニスト・インタアナショナル第一回會議はロシア革命が「共產黨宣言」に描かれた徑路を取つたことを主張してゐるが（二九—三〇頁）ヒルキットはロシア革命が戰爭によつて生じた異常なる狀態によつて惹起されたことを主張する。かれはその要素を次の如く擧げてゐる。

（一）國民生活の全組織の急激なる崩壞、（二）官僚の不道德化、（三）虛弱にして無組織のブルジョワジー（四）貧困にして、戰爭に疲れ、反逆的、自暴自棄的の國民（五）大多數の土地に餓えた農民（六）軍隊より解放せられた數百萬の勞働者並に農民（七）自然的に强固に組織せられた都市勞働者、（八）少數のヨーロッパ流の社會主義理論を體得した勇敢なる社會主義者

これらの要素の存在してゐることはロシアが資本主義の成熟を待たずして、社會主義革命に

入つたことを立證してゐる。こゝでヒルキットはマルクス並にその一派が、今次の戰爭の如き異常狀態を豫測することに失敗したことを斷言してゐるが、（三五頁）少くとも力アル・カウツキイに就いては、然か言ふことを得ない。カウツキイはその一九〇二年出版の「社會革命」において戰爭が階級鬪爭並に社會革命の有力なる要素なることを指摘し、（シモンズ氏英譯九七頁）且つ英國が資本主義的に進步してゐながら、社會革命の機運の熟さないことは、英國の勞働者階級の最高理想が、プチ・ブルジョワたることにあると云ふ革命的精神の缺乏に、その原因のあることを主張し、社會革命に革命的理想主義とも云ふべき精神の必要なることを論じてゐる。（一〇〇—二頁）

このロシアが資本主義的に發達してゐないと云ふ點において、ロシア革命の諸問題は發生してゐる。社會主義革命の根本要件たる生產力の發展はロシアにおいて最も缺乏してゐるものである。故にロシア革命の經濟問題は、ブハリンの言葉を借りれば第一に「最大の規模における生產の確立の必要である。すべての小企業は消滅しなければならない。すべての仕事は最大可能の工場、仕事場、農場に集中せられなければならない。」（三九頁）こゝで大工業の問題と農業問題が起つて來る。農業問題は社會主義の理論家が最もこれまで閑却してゐた問題であつた。さうしてロシア革命における最大の難關は農民問題である。共產主義者が農民の間に土地を分配したことは、ヒルキットによると、その社會化に對する大なる退步であつたのである。（四五頁）

無產階級の獨裁は第六章において論ぜられる。ヒルキットはエンゲルス、マルクスを引用して論じてゐるが、第七章に到つて無產階級の獨裁は、殊にロシアに於けるが如きプロレタリアートの少數なる場合には、必然的に「共產黨の獨裁」であると云つてゐる。これは共產主義者も認めてゐるところで、ジノヴィエフ、ブハリン皆これを認める。ジノヴィエフは云ふ。六十萬の共產黨員は最良の勞働者であり、勞働者階級の最善の代表者であると。（六四頁）單に共產黨の獨裁である許りではない。レニンは云ふ。「大機械產業の形態における勞働組織の過程の成功のためには、一の意志に對する絕對の服從が必要である。……革命は、最も舊い、最も强固にして重い鐵鎖を破つた。民衆はその鐵鎖に服從することを强要されてゐた。それは昨日のことであつた。さうして今日その同一の革命が——さうして社會主義の利益のために——勞働過程を指揮する人の單一の意志に對する民衆の絕對服從を要求する」と。（Nikolai Lenin, The Soviet at Work. pp. 35-36）プロレタリアの獨裁とは、共產黨の獨裁であり、ニコライ・レーニンの獨裁である。このプロレタリアの獨裁の形式が即ちソヴィエットである。ソヴィエットが現在の議會と異る點は、そが立法機關であると共に、行政機關をも兼ね、その委員選出方法が職業別の形態を採つてゐるのにある。たゞその選出方法は都會においては、二萬五千人に對して一人の委員、地方においては十二萬五千人に對して一人の委員が選出せられ、村落、郡、州のソヴィエットに對する委員の選出は間接方法を採つてゐる。ソヴィエット制度に對する批評は、この選出方法と勞働者のみに選擧權を與へ、ブルジョア階級に對しては嚴密に選擧權の行使を禁止する。點に向けられてゐる。（第八章）

次に問題となるのは、社會主義革命における

暴力の問題である。ロシア共産主義者は社會主義革命における暴力を最重要視し、レニンの如きは暴力革命の思想はマルクス、エンゲルスの根本思想であると主張する。暴力革命に關する論述こそ、「マルクスよりレーニンへ」の中の最も興味ある部分である。ヒルキットは、社會主義運動を三期に分つて、權力獲得準備時代、權力の獲得、並に權力の防衛の時代に分つてゐる。さうして權力防禦の時においてのみ暴力を必要とすると主張する。マルクス、エンゲルスは嘗てバクーニン流の行爲の宣傳を斥けた。（九四頁）けれども新社會が舊社會の胎内に宿つた場合には、暴力なる産婆を必要とすると云つたが、（九六頁）マルクス、エンゲルスはこれを立證すべき何等の歴史的事實をも有してゐなかつた。（同頁）然るに社會主義革命即ち無産階級による政權の奪取は、フィンランドにおいても、獨逸においても、オーストリア、ハンガリーにおいても、パリ・コンミュンにおいても、何等の流血の慘事を見ずして行はれたのであつた。（九六―九頁）然るに社會主義革命に對するブルジョアジーの反革命運動は甚だ强力であり、暴力的である。故にこのブルジョア反革命を抑壓する防禦的の意味においての暴力は、これ事情止むを得ざるに出づるものである。ロシア革命の繼續は實に當時における反革命運動の絶對抑壓のための赤衛軍の存在してゐたことによつてゐる。

ロシア革命家は、その革命に引き續いて世界各國の革命を豫期した。けれども世界の革命は共産主義者が豫期した程に、速かに來ることが出來なかつたのである。ロシア革命はこゝにおいて、資本主義國家を四圍に持つ社會主義國家となつた。世界革命の豫想を懷いた共産主義者の態度は甚だ困難を伴つて來た。資本主義國家を四圍に持ち、その生産力が甚だ優秀でないロシアは四圍の資本主義の經濟勢力を借るの必要に會した。外交政策の變更通商關係の要求は、その必然の結果である。（第十章）たゞこれを以て直ちにボルシェヴィズムの資本主義への降伏と云ふは甚だ誤つた觀測と云はねばならない。それは國家社會主義又は國家資本主義の採用である。

私は讀後の感想にあまり多くの頁を費し過ぎたやうである。それはヒルキットの著書が最良と信じたからでは勿論ない。たゞその内に論じられてゐる問題が甚だ重要なので、餘り略筆を用ゐることが出來なかつたからである。ヒルキットの書はこの社會主義革命の重要問題に對する一の教科書、一の手引に相當するものである。

ジョン・ラスキンの奢侈論（二、完）

奥井復太郎

三

自己所有の財に就いて何人も一方には非常に嚴肅なる排他的權力を有すると共に他方には頗る自由なる其の處分權を享得してゐるのが現在社會の財産制度の原則である。故に個人は極めて狹い範圍の制限――多くは法律的の――を除いては自己の富を如何なる方面に如何なる方法で以つて使用するも何等妨げないのである。假令他に社會的の又は倫理的の制限が富の放縱なる使用に對して加へられる事があつても現在の社會に於ける富の權力は此の種の非難を壓倒し以つて自己を是認するに充分である。否、更に